



学校通信 赤坂小だより

令和7年度 第10号 R7.7.14

北九州市立赤坂小学校

校長 大成 清徳

☆快適な環境で気持ちの良い学校生活を目指して☆

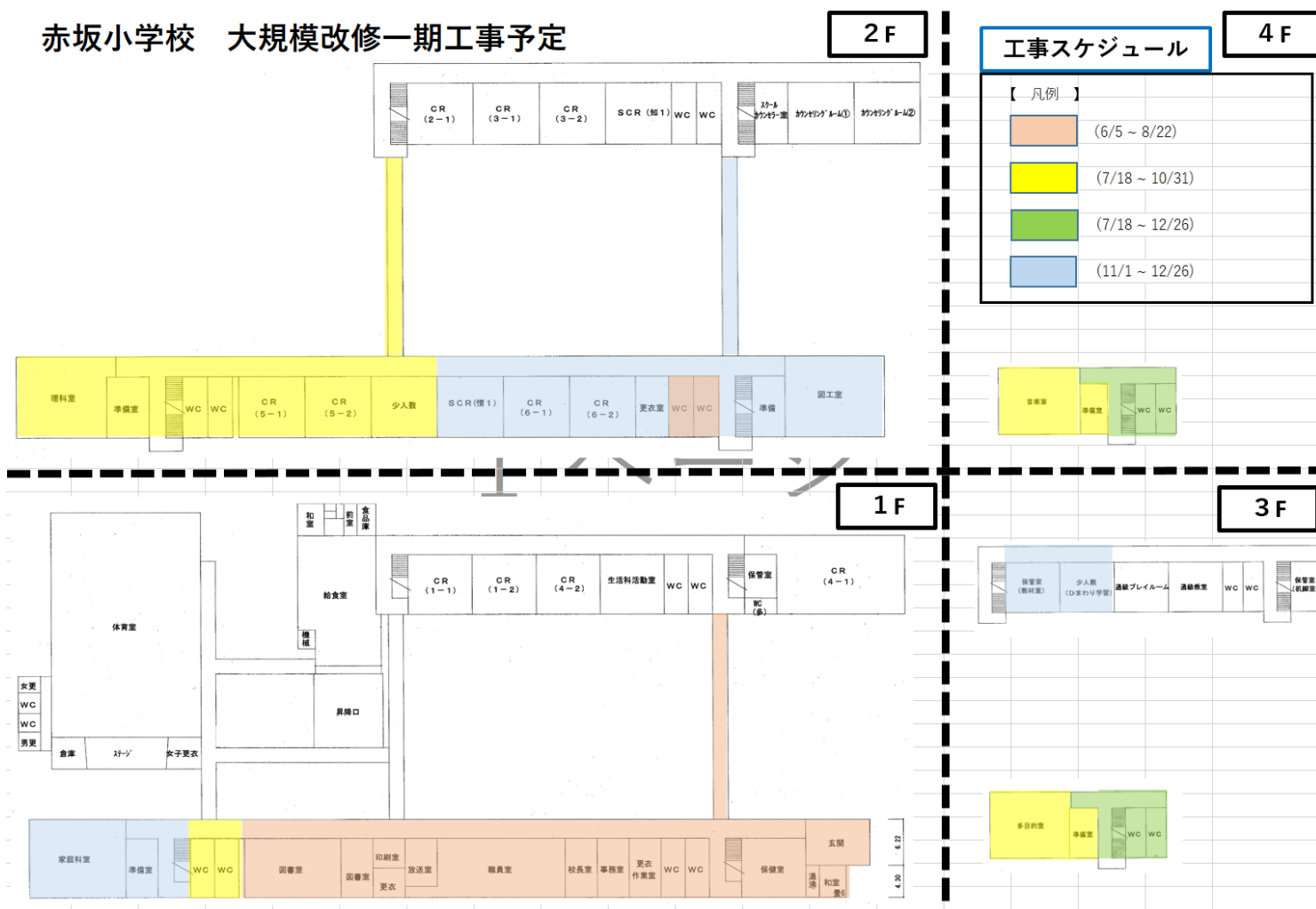
赤坂小学校大規模改修工事始まる

◎昭和57年の開校から、今年で44年目を迎える本校ですが、校舎の老朽化も随所に見られることから、今年度から来年度にかけて、大規模改修工事が行われることになりました。

既に6月から、工事用車両の乗り入れのため、運動場の一部が使用できなくなったり、敷地内で通行が制限されたり、子どもたちには不便な思いをさせています。授業の行われる時間にはできるだけ騒音がする作業は避けることと、安全には十分配慮して工事を進めてもらうよう、担当業者にはお願いをしています。

一期工事では、職員室のある管理棟を中心に、床や天井、扉などの内装、空調設備、照明、教室の黒板、棚などの工事を行います。来年度の二期工事では、1,2年生の教室があるB棟及び体育館の工事を行います。工事予定は、下記の図に示している通りです。広範囲にわたる工事であるため、夏休みだけでは完了しません。そのため、登校が始まって、仮教室に移動して授業を受けることになる学年もあります。しばらく、不自由をさせることになりますが、改修工事が終われば、新しくなった教室で、これまで以上に快適な学校生活を過ごすことができます。その日を楽しみに、児童のみなさんには辛抱をお願いしたいと思います。保護者の皆様にも、ご心配をおかけしますが、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。

赤坂小学校 大規模改修一期工事予定



◆自分の命は自分で守る【4年生】自転車安全教室

◎7月8日(火)、4年生は折尾警察署の交通課のおまわりさんをお招きして、安全な自転車の乗り方について学びました。

特に、自転車に関するルールが新しくなったことについて、動画を交えて具体的に教えていただきました。内容は、以下の通りです。



◆自転車＝軽車両 歩道ではなく、車道を走ることが原則。自動車と同じく左側通行

※ただし、13歳未満の子どもが自転車に乗るときは、歩道を通ることができます。

◆ヘルメット着用

道路交通法の改正により、すべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となっています。
自分の命を守るために、ヘルメットは着用するようにしましょう。

◆巻き込まれ事故に注意

交差点を渡るときなど、自動車の死角に入らないように気を付けましょう。

◆危険な自転車の乗り方をしない。

・二人乗り ・手放し、片手放し運転 ・2台以上で並走 ・傘をさしての運転 ・スマホ等を見ながらの運転 ・イヤホンで音楽を聴きながらの運転

◆乗る前に、点検・整備を忘れずに…合言葉は「ぶたはしゃべる」

「ぶ＝ブレーキ」「た＝タイヤ」「は＝ハンドル」「しゃ＝車体」「べる＝ベル」

◎夏休みなど、長期休業中は自転車を利用する機会が増える時期です。ご家庭でも、自転車の安全な乗り方について、お子様と話し合ってみていただきたいと思います。

◆難民支援のためにできること【5年生】服のチカラプロジェクト

◎衣料品販売のユニクロやジーユーで知られるファーストリテイリング社が UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とともに取り組む小・中・高校対象の参加型学習プログラム『“届けよう、服のチカラ”プロジェクト』。昨年度に引き続き、ユニクロ折尾店の社員の方による出張授業を受けました。

その中で、「難民」とは、戦争などによって、自分の国を追われ、保護を必要としている人のことであり、世界中で1億1730万人も存在しており、そのうち約40%が18歳以下の子どもたちであることを知りました。

また、「紛争避難体験ワーク」として「もし紛争が起きて、自分の住んでいる町から非難しなければならなかったら。」という想定で、7つのアイテム(水、食料、衣服、お金、スマホ、薬、家族の写真)のうち、何を最も大切にするか優先順位を考え、グループで意見交換しました。

衣服がないとどれだけ困るのかを考え、「服のチカラプロジェクト」がこれまでに集めた服が、世界各地の難民の子どもたちにも送り届けられ、命と暮らしを支えていることを学びました。

そして、実際に服を送るための「3つのステップ」(学ぶ・知る⇒考える・呼びかける⇒回収・発送する)を知り、服の集め方を考え合いました。

「服のチカラプロジェクト」は、これまで多くの服を集めて送り届けてきた実績があります。本校でも、昨年度の取組で、多くの保護者の方からご協力をいただき、たくさんの服を届けることができました。

しかしながら、まだまだ世界では、衣食住に不自由している子どもたちは数多く存在しており、500万着の子ども服の支援が求められているということを知りました。

今回学んだことを生かして、後期には、5年生の子どもたちが主体となって、校内や地域で着なくなった子ども服を回収します。回収に向けて、今後5年生から、家庭で着なくなった服を提供してくれるよう呼びかけていきますので、保護者の皆様にも引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

